



One to One

<3つのプログラムで支援>

みやぎNPO夢ファンド

23年度助成団体決定!

震災の影響で延期になっていた、平成23年度みやぎ夢ファンドの助成団体が決定しました。このみやぎ夢ファンドとは、県の拠出金と市民や企業などからの寄付金を原資としている基金(ファンド)で、宮城県と(特活)せんだい・みやぎNPOセンターとの協働で設置・運営されています。各NPOが継続的・安定的に活動を展開できるよう、環境整備や、活動のすそ野を広げるための新規団体立ち上げ支援、ステップアップを目指す団体への支援などを目的として、3つの支援プログラムで構成されています。



ステップアップ支援プログラム

県内のモデルケースへの発展が期待される、非常に公益性の高い事業に対して助成。

■(特活)World Open Heart(100万円)
社会的差別や孤立に苦しむ犯罪加害者家族を対象に、事件発生から出所後までサポート。相談事業や個別の支援プログラムの作成、実行などにより問題解決に繋げる。

■(特活)まなびのたねネットワーク(100万円)
浦戸諸島内外の子供たちを対象に、島の産業(養殖)と災害からの復興を同時に学べる体験プログラムを開発、実施し、交流と復興支援を行うことで、産業の再建を目指す。

組織開発支援プログラム

組織づくりや人材育成・情報発信の体制の強化に対し経費の一部を助成。

■(特活)おひさまキッズ(20万円)
組織運営の向上や子育て支援者のために研修を実施するほか、活動の認知度向上のイベントを開催する。

■(特活)せんだい杜の子ども劇場(24万円)
既存のパンフレットを見直し、復興支援事業を盛り込むことで充実させる。また作成を通じて、組織内の基盤強化を狙う。

■(特活)アマニ・ヤ・アフリカ(24万円)
インターネットを使った情報発信や、運営の更なる効率化を図る研修会を開催することで、収益基盤の強化を狙う。

スタートアップ支援プログラム

新規事業の立ち上げや、これから活動を始める団体に必要な初期費用の一部に対して助成。

■(特活)フォレストサイクル元樹(30万円)
間伐材や道路支障木を市民が資源として有効活用できるようなシステムを構築し、森林保全や木材リサイクルの促進を図る。

■食育NPO「おむすび」(30万円)
震災による農水畜産物への計り知れない影響をより多くの人に伝えるため、新たな冊子の発行事業を行う。

平成23年度みやぎNPO夢ファンドについて、
運用委員会委員長 高浦康有東北大学大学院経済学研究科准教授に伺いました。

「今回の各申請事業において特徴的だったのは、やはり震災の影響です。仮設住宅地の生活援助、被災農家と消費者をつなぐ試み、福祉施設の物販支援など、地域コミュニティの復興に向けて奔走する、各団体の意気込みが伝わる事業内容が多かったように思います。どちらかといえばハードな資本整備に傾きがちな行政の公共サービスを補完する、地域の細やかなニーズにソフト面から応えるNPOの役割は、震災後ますます重要なものとなり、そうしたNPOを応援する本ファンドの意義も大きいと考えられます。

申請団体の方々へのアドバイスとしては、事業計画が単なる夢物語とならないよう、実現や継続の可能性について確証

を与えてくれる材料を積極的に示してもらいたいということです。受益者のニーズ調査や他の同種事業との比較、これまでの経験や人的ネットワークの活用、想定される状況を織り込んだ、より細かい事業シミュレーションなど計画づくりに十分力を注いでもらいたいと思います。夢や想い、情熱ももちろん大切な要素ですが、公金を扱うにふさわしい団体活動であるかどうか、厳しい目が注がれていることを忘れないでいただくと嬉しいです。」



被災地でさまざまな問題解決に取り組む

～宮城県新しい公共の場づくりのモデル事業～

第1次

宮城県新しい公共の場づくりのモデル事業(災害復興緊急事業)は、決定から3カ月が過ぎ、各事業は被災地で問題解決のために動きだしています。2つの事業をご紹介します。

「カーシェアリング事業実現に伴うモニタリング及び試験運転事業」被災者ニーズに細やかに対応した、新たな移動手段

カーシェアリングとは、一般に登録を行った会員間で特定の自動車を使用するシステムをいい、現在首都圏などではマイカーの代わりに新しい移動手段として、利用が広がってきています。今回の事業は女川町をモデル地域とし、移動手段が限られ不便な生活を強いられている被災地の住民向けに、ニーズに合った形でカーシェアリングを実施します。

事業を行うのは、東日本大震災被災地向けカーシェアリング事業推進協議会。協議会の構成メンバーは女川町企画課復興推進課、特定非営利活動法人みちのく復興の会、特定非営利活動法人移動サービスネットワークみやぎなどの7団体です。



▲(特活)みちのく復興の会事務局長の渡邊将昭さん

今回のカーシェアリング事業は、この事業のために寄付を受けた中古車10台のうち、まずは5台を女川町の2か所の仮設住宅、町民多目的運動場(約160戸)に2台と清水地区(約100戸)に3台設置。利用者は初めに会員登録をし、IDカードを発行してもらった後、電話予約をして利用。利用料は無料で、ガソリン代のみを実費負担します。

利用の仕方は2通りで、ひとつは時間を決めて自動車を借り、自らが運転するパターン。もうひとつは、運転補助

員が運転をして目的の地まで送迎をするパターンです。電車やバスなどの公共交通手段が断

たれた現状で、高齢者や障害者、運転免許がない人など、被災地の交通弱者のために、移動をサポートする事業モデルを策定しました。運転補助員は各設置地域に週5日間常駐し、日中送迎を受け入れます。補助員は今後地元女川町で4名程度を採用し、対応する予定です。

協議会の中心として、今事業の事業計画や運営を担っている特定非営利活動法人みちのく復興の会。事務局長の渡邊将昭さんは「震災直後からボランティアで被災地に入り、現地では移動手段がなく不便な生活を送っている様子を目の当たりにし、カーシェアリング事業を計画しました。この車を利用し、一人でも多くの方の日常生活が快適になればと思います」と話しています。

今回のモデル事業は3月末まで実施し、データなどを収集分析したのち、今後被災地域全域で有料のカーシェアリング事業を展開したいと考えています。



▲2つの避難所に設置されるカーシェアリング用の車

[問合せ先]
特定非営利活動法人 みちのく復興の会
TEL:022-302-4561 FAX:022-302-4562

「子どもをとりまく豊かな環境づくり事業」NPOと仙台市の協働で、災害にあった子どもの心のケアを実施

事業を行っているのは特定非営利活動法人冒険あそび場-せんだい・みやぎネットワークと、仙台市子ども未来局子育て支援課で構成する「冒険あそび場・仙台市協議体」です。災害からの復興を目指し、早急に取り組むべきこととして、

- 1.被災地の子どもたちの心のケア
- 2.沿岸部環境再生調査
- 3.スタッフとボランティアの養成
- 4.被災地の住民が主体的に地域づくりに関わるきっかけづくり

の4つを事業の柱としています。

震災前より、仙台市東部の海沿いに海岸公園冒険広場(通称:ぼうひろ)があり、『遊び』を通して「生きる力」を子どもたちに!をテーマに冒険あそび場を運営してきました。



▲ニッペリア遊び場の子どもたち

しかし海岸公園冒険広場は被災し現在休園となっています。そこで、災害に遭った子どもの心に残る傷への治療活動として、被害が大きかった地域のあそび場づくりに着手しました。若林区とも連携し、仮設住宅になっている若林日辺グラウンドに「ニッペリアあそび場」を、出前形式で毎週木曜日午後2時～5時まで開催しています。子どもたちが帰ってくるまでの間、仮設住宅に入居している大人の方たちと、プレーリーダーがさりげなく話し相手をすることもあります。子どもたちが帰ってきて、そこで子どもたちの遊ぶ姿を眺めながらお茶こ飲みをし、世代間交流の場となっている遊び場は地域にとって大きな存在です。子どものあそび場を通して、心の扉と家の扉を開けてもらい、新しい環境で

も孤立しないコミュニティづくりの一助となるように心掛け活動しています。

津波の影響で現在休園している海岸公園冒険広場ですが、一日も早い再開に向け奮闘し

ている中で、11月20日に臨時開園を計画しています。また、ニッペリアあそび場と同様に遊び道具を乗せた車(プレーカー)で出張するあそび場として、荒井2号あそび場(水曜日)・七郷あそび場(土曜日)・六郷あそび場(日曜日)も開催しています。特定非営利活動法人冒険あそび場-せんだい・みやぎネットワーク事務局の米倉正子さんは「子どもたちが、一日も早く日常を取り戻せるよう、あそび場づくりをすすめて、心のケアをしていこうと思っています。また、そのプロセスで子どもを見守る大人の輪を広げていきたい。被災して仮設での生活を余儀なくされた方たちと受け入れ地域の方たちとの、コミュニケーションの場づくりにも配慮し、継続的に長い支援を続けていきたいです。」と事業への想いを話しています。



▲地域住民の方と楽しく遊ぶ



▶(特活)冒険あそび場-せんだい・みやぎネットワーク事務局の米倉正子さん

[問合せ先]
特定非営利活動法人
冒険あそび場-せんだい・みやぎネットワーク
TEL/FAX:022-264-0667

みやぎNPOプラザ開館10周年記念 NPOフォーラム開催!

11月19日(土) 10:30～19:00

みやぎNPOプラザの開館10周年を記念して、NPOのこれまでの歩みを振り返り、これからのNPOの進む方向について考えるフォーラムを開催します。

パネルトーク「みやぎのNPO ～これまでの10年、これからの10年～」

NPOのこれまでの歩みを振り返り、10年先を見据えて、NPOに求められる役割やそれに向けての支援策などを、NPOセクターに関わる方々のそれぞれの視点からお話いただきます。

パネラー

山岡義典さん(認定特活)日本NPOセンター代表理事
大滝精一さん(特活)せんだい・みやぎNPOセンター代表理事
木村正樹さん(特活)いしのまきNPOセンター理事
布施孝尚さん(登米市市長)

コーディネーター

大久保朝江(みやぎNPOプラザ館長)

14:45
17:15

10:30 12:00	NPOのソーシャルビジネス事例発表会 「NPOの自立を応援するソーシャルビジネス塾」卒業生の活動発表と専門家のアドバイス。
13:00 14:30	3.11宮城のNPOはどう動いたか それぞれの救援活動から 震災直後から被災地支援に取り組む、3つのNPO法人からの活動を報告する。
17:30 17:45	(特活)創る村(東松島市)からの歌のプレゼント 震災で多大な被害を受けた(特活)創る村。復興にかける思いを歌に込め届ける。
17:45 19:00	交流会(要申込、1,500円) おいしい料理を食べながら、NPO談義に花を咲かせる、交流会を開催する。

※プログラムの詳細は「みやぎNPO情報ネット(<http://www.miyagi-npo.gr.jp/>)」からご覧いただけます。

【みやぎのNPOひろば】 講座やワークショップで、それぞれのNPOを知るチャンスです。

要申込	「アロマde癒しの骨盤底筋体操(失禁予防体操)」	クーシュの会
要申込	「ゆにふりなお散歩in榴ヶ岡」	(特活)ゆにふりみやぎ
要申込	「花でコミュニケーション～花を楽しむ～」	フラワーセラピー研究会仙台
要申込	「発達障がい者の現状を知ってもらおう場」	(特活)グループゆう
	「アフリカの現状を知ろう～活動のあしあと(13年のあゆみ)～」	(特活)アマニ・ヤ・アフリカ
	「落ち葉堆肥と放射能、廃油せっけんづくりの実演」	仙台生ごみリサイクルネットワーク
要申込	「大震災」少子・高齢化社会! 成年後見制度が問いかけること～生き抜いていくための多くの含蓄が見えてくる～」	(特活)経営体質改善サポート宮城
要申込	「障がい者への関わりをとおして 共に喜びを分かちあうために」	(特活)シャロームの会

【NPOのお店コーナー】 ここでしか手に入らないものもあるかも?

- 仙台生ごみリサイクルネットワーク
- (特活)アフリカ
- (特活)とうほく食育実践協会
- (特活)おおさき地域創造研究会

[問合せ・申込先]
みやぎNPOプラザ
TEL:022-256-0505 FAX:022-256-0533
E-mail:npo@miyagi-npo.gr.jp

●申込:講座・専門相談は要予約。所属団体・参加者氏名・連絡先・電話・FAX番号・質問事項をご記入のうえ、FAX・メール・電話にてお申込み下さい
●主催:宮城県(みやぎNPOプラザ) ●企画・実施:特定非営利活動法人社の伝言板ゆるる

NPOのための会計・税務講座

NPOにかかわる税金初級講座

NPO法人になると課税される税金って何?何に対して税金がかかるの?任意団体に対する税金、NPO法人に対する税金など、NPOの税金の初級をお伝えします。

- 日 時: 12月1日(木) 13:30~16:30
- 場 所: みやぎNPOプラザ
- 講 師: 平野由紀子さん(税理士、東北税理士会仙台北支部副 支部長)
- 対 象: NPO・市民活動団体の代表・スタッフ・会計担当など
- 定 員: 20名(申込先着順)
- 参加費: 1,000円

★1/26には「NPOの法人税講座」を開催します

NPOマネジメント講座

NPOで取り組むコミュニティビジネス

団体の活動にコミュニティビジネスを取り入れたいと考えているみなさん!コミュニティビジネス支援の達人が、そのイロハから実践まで、事例満載でお届けいたします!

【inくりはら】

- 日 時: 11月9日(水) 18:30~20:30
- 場 所: 栗原市市民活動支援センター 大会議室
(栗原市築館伊豆2-6-1)

【in仙南】

- 日 時: 11月10日(木) 14:00~16:00
- 場 所: 大河原合同庁舎 201会議室
(柴田郡大河原町129番1号)

【共通事項】

- 講 師: 大滝聡さん(特活)都岐沙羅パートナーズセンター理事
齋藤主税さん(特活)都岐沙羅パートナーズセンター理事・事務局長
- 対 象: コミュニティビジネスを始めようと考えているNPO・市民活動団体のメンバー 等
- 定 員: 各20名(申込先着順)
- 参加費: 各500円

NPOのための専門相談

■会計・税務相談 → 11/29(火)、12/15(木)

日々の会計業務から決算書作成や税金のことなど、NPO会計に詳しい税理士が、ご相談をお受けします。

◎相談対応: 成田由加里さん(公認会計士・税理士)(11/29)
小山かほるさん(公認会計士・税理士)(12/15)

■経営相談 → 12/13(火)

熱血指導で大人気の経営コンサルタントが、マンツーマンでアドバイスします。

◎相談対応: 波多野卓司さん(経営コンサルティング波多野事務所代表)

■法人設立・団体運営相談 → 毎週水曜日

NPO法人の設立に関わることや、NPOの運営について、お気軽にご相談ください。

◎相談対応: 大久保朝江さん(みやぎNPOプラザ館長)

【共通事項】

- 時間: 13:00~17:00(相談時間: 1団体1時間程度)
 - 定員: 各3団体
- ※要予約。所属団体・参加者氏名・電話・FAX番号・質問事項をご記入のうえ、FAX・メール・電話にて下記連絡先までお申込み下さい。(申込締切:開催日の6日前)

50歳からのNPO実践塾 第10期生募集

「今までのキャリアを活かしたい!」「初めての活動にチャレンジしたい!」とお考えのミドル&シニアのみなさん!あなたにもできる!「社会貢献」を探してみませんか?仲間探しにもウツツケです!

- 日 時: 1/21、2/4、2/18、3/3、3/17、3/24
(全て土曜日、各回14:00~16:00)
※都合により日程を変更する場合があります
- 対 象: おおよそ50歳以上のミドル&シニア
- 定 員: 10名(申込先着順)
- 参加費: 4,500円(資料代など)

お知らせ

■新規のNPO法人認証団体

宮城県のNPO法人数 **599団体** (平成23年10月10日現在)
※解散、所轄庁変更、認証取消、認証撤回した団体を除く

団体名	所在地	活動内容	認証日
東日本大震災子ども未来基金	仙台市青葉区	被災した子どもたちへの学習の経済的援助事業	8/24
日本ライフフィットサービス協会	栗原市	災害救援・支援事業等	8/29
ぐるっと	登米市	被災者の生活再建支援に関する事業等	9/1
料理寺子屋 一滴	岩沼市	食事作法を通じた礼儀作法等の伝承	9/5
World Open Heart	仙台市青葉区	社会的弱者のための人権相談事業等	9/9
愛宮城	仙台市青葉区	被災地産物の販路拡大事業等	9/14
南蔵王郷四條司家御料荘園	白石市	南蔵王の資源と農業生産物を用いた食文化交流事業等	9/14
HERO	仙台市泉区	キャラクターショーの開催等	9/22
アスイク	仙台市青葉区	子ども、若者に対する教育的支援事業等	9/27
セージハウス	仙台市青葉区	福祉施設併設の集合住宅の建設・運営事業	9/28
スマイルシード	仙台市太白区	smile seed Letter事業、支援活動のサポート事業等	10/5

One to One

発行日: 2011年11月1日
発行: 宮城県民間非営利活動プラザ(みやぎNPOプラザ)
発行部数: 3,000部
編集: 特定非営利活動法人社の伝言板ゆるる
編集スタッフ: 相原いつみ 清野利之

【お問い合わせ】
〒983-0851 宮城県仙台市宮城野区榴ヶ岡5
TEL: 022-256-0505 FAX: 022-256-0533
E-mail: npo@miyagi-npo.gr.jp
URL: http://www.miyagi-npo.gr.jp

2011 NOVEMBER
vol.64

「One to One」は、県内各地でのさまざまなNPO活動により、ひととひとが信頼でつながって、よりよい市民社会が形成されるよう願いを込めたニュースレターです。